

# ハロートウン

第76号

生涯学習情報  
●連絡先●  
茂原市生涯学習課  
☎20-1559

茂原七夕まつりでもおなじみ夏の風物「鯛ちようちん」が伝統工芸品として市役所に展示されています。その由来を保存会の方から伺いました。



天王待のお社で

「鯛ちようちん」ゆかりの場所は通町(茂原市茂原)の八坂神社。江戸時代中期に幕府指示で各地に八坂神社が設けられたのが起源だそうです。以来、茂原町の通町から東側一帯(東端は野巻戸)の人々



鯛ちようちん行列(七夕まつり)

が氏子となり、主祭神の牛頭(天王)にちなみ、祭りを「天王待」と呼び親しんできました。



八坂神社付近案内図

元はおばあちゃんが

祭祀で神前に鯛を供える風習が途絶えていましたが、それに代るものとして鯛ちようちんが生まれたとのこと。戦前より、神社近くの丸商店のおばあちゃんが、家計の助けに鯛ちようちんを作り始め、それを近隣の神社で売り、また家でも売っていました。

神社の縁起物

約四十年前、高齢のおばあちゃんから頼まれ、鯛ちようちん作りを氏子の方が受け継

ぎ、保存会で縁起物として頒布されるようになりました。保存会の方々にも家業があり、現役引退の人たち4人の代表者を中心に、家族などの応援を得て作っています。つい通り過ぎるほどに目立たない神社ですが、保存会の人たちの努力で、その存在が高まっているようです。

年中休みなしです

鯛ちようちん作りは正月明けから年末まで多忙。2月末まで柄となる篠竹集め。この時期でないと虫害で使えないのです。知り合いの山に行き、刈取り、運搬、乾燥と加工で約五千本を用意。鯛飾り部分の経木を年初めに注文。時代の変化で、包装材だった

経木は入手難だそうです。

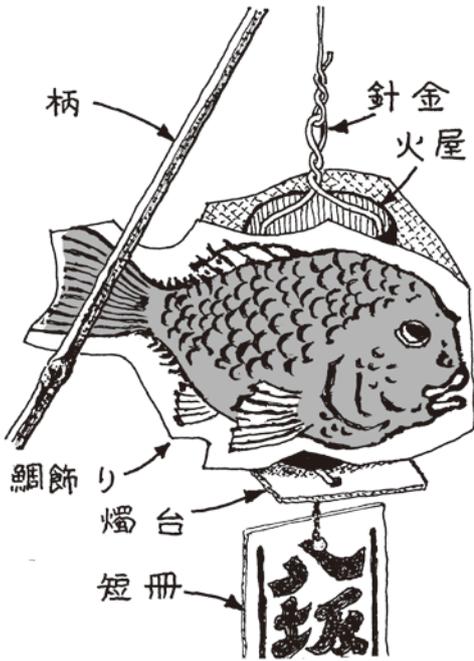
経木って何？

松材を薄く削ったシート状の包装材。むかし、お経を書いたため使われたのが呼び名の由来。食品包装に近年まで多用されたが、最近ではプラスチック材に代っている。

祭祀を超えて

神社祭祀のほかに祝い事や卒業式にも要望があります。鯛飾りの摺り(版画同様)と色付け、火屋、燭台、短冊などの加工、各部組合せが主な工程。細部をあわせ二十六工程。提供時期毎に、氏子の方々と応援者との協力作業。神社祭祀時の千五百個が最多で他の要望にもその都度行うため年間を通しての作業です。

## 「鯛ちようちん」訪問



編集員も鯛飾りの摺りにチャレンジ

すごい！摺り

祭祀のとき、社殿前左右を飾る幟挿みは、江戸時代の作品で市の指定文化財、鯉の彫刻が施され、作者は三代目の波の伊八とか。七月六日〜七日の祭祀のときでないとお目にかかれません。一見をお勧めします。

受け取るのはひとり

代表の方が、ふと漏らした言葉です。手作りでも多少バラツキますが、受け取るのは一人ひとりだから、丁寧になるとの心構えなのです。

これまで氏子代表の人たちが小学校などへ積極的に赴き、鯛ちようちん作りの実習を行っており、県内各地からも招請がある由。このような活動により伝統は引き継がれて行くのだと思われれます。